

**御宿町と千葉大学病院整形外科が
 ロコモ予防のコホート研究「おんじゅくstudy」を開始！**
 - 10年計画で町民調査を行い、予防策を見つけて健康寿命の延伸へ -

千葉大学病院（病院長 山本 修一；千葉県千葉市中央区）の整形外科は、御宿町（千葉県夷隅郡御宿町）と御宿町町民の協力を得て、健康寿命の延伸を目指したコホート研究「おんじゅくstudy」を10年計画で5月より開始します。そのキックオフとして5月27日（月）、住民説明会を兼ねた公開講座を開催します。

1. 調査背景

超高齢社会の今、元気に自立して生活する期間を延ばす「健康寿命の延伸」が課題となっています。骨や関節、筋肉など「運動器」の衰えが原因で、歩行など移動機能が低下した状態となるロコモティブシンドローム（運動器症候群、略称ロコモ）は、進行すると要介護や寝たきりになるリスクが高くなります。生活の質を下げないためにもロコモ対策が急務です。

2. 調査概要

- 対象者 ・ 御宿町に居住する45歳以上の町民 1000名
御宿町での実施理由:人口変動が少なく、本研究への賛同が得られたため
- 検診内容 ・ ロコモ度テスト（簡単な運動で運動器の状態を把握する）
・ 筋肉量の測定、背骨と足のレントゲン
- 調査方法 ・ コホート研究
同人物を3年おきに検診し経時的な変化を10年計画で調査することで、ロコモになりやすい人の特徴を見出し、分析して予防策などロコモ対策につなげていく

3. 公開講座「ロコモを知って、健康寿命を延ばそう！」の開催

- 日時 ・ 5月27日（月）14時00分～15時30分 御宿町役場 大会議室
- 講演者 ・ 山口 智志医師（千葉大学国際教養学部准教授）
松浦 佑介医師（千葉大学病院整形外科助教）



整形外科 科長
大鳥 精司 教授

今回の共同研究は、千葉県ロコモティブシンドローム研究会のつながりで実現することができました。御宿町の協力のもと調査研究を開始します。コホート研究では10年間、縦断的にロコモ度テストを行い、リスクを抽出していきます。この調査を継続し、御宿町民のロコモ対策と健康寿命の増進に貢献できたら幸いです。さらに、その成果を千葉県の健康増進計画である「健康ちば21」や全国に還元していきたいと考えています。

<取材のお申込み・お問い合わせ先>

千葉大学病院 病院広報室

Tel : 043-222-7171 E-mail : byoin-koho@chiba-u.jp